地質学雑誌　第114巻　第4号（通巻1351号）付録　昭和27年6月10日第三種郵便物認可　平成20年4月15日発行（毎月1回15日発行）

日本地質学会 News

Vol.11 No.4 April 2008

5月10日は
地質の日

地質の日の由来

5月10日は、明治9年（1876）、ライマンらによって日本で初めて広域的な地質図、200万分の1「日本蝦夷地質要略之図」が作成された日です。
また、明治11年（1878）のこの日は、地質の調査を扱う組織（内務省地理局地質課）が定められた日でもあります。

地質の日とは

私たちの住んでいる大地は、地層、岩石、土壌などでできています。これらの性質のことを「地質」と呼びます。地質とは、まさに大地の性質＝Quality of Earth のことです。
地質はエネルギーやさまざまな素材の基となる鉱産資源、温泉や美しい景観など私たちに豊かな恵みを与えてくれます。また、構造物の建設、地下空間利用や、廃棄物処理などの環境面でも地質は重要な役割を果たします。しかし一方で、地質は、地震、火山噴火、斜面崩壊などによって大きな災害をもたらすこともあります。

このように、「地質」は、人間社会と深く関わっていますが、「地質」の重要性や、地質に携わる人々の活動は、一般には、ほとんど知られていません。
一般の人々が、地質をより身近に感じ、理解できることによって、安全・安心で豊かな暮らしが確保できるとともに、地球や環境を大切にすることにもつながります。
地質の日は、この地質への理解を推進する日として、制定されました。さまざまなイベントや日常の活動を通じて、地質をより身近に感じて下さい。

地質の日は、2007年3月13日に、地質関係の組織・学会が発起人[*1] となって定められました。今後「地質の日」事業推進委員会[*2] が「地質の日」を広めていきます。

*1　発起人：日本地質学会、日本応用地質学会、日本情報地質学会、日本古生物学会、資源地質学会、（独）産総研地質調査総合センター、北海道立地質研究所、神奈川県立生命の星・地球博物館、（社）全国地質調査業協会連合会、(NPO) 地質情報整備・活用機構（順不同）
*2　事業推進委員会：日本地質学会、日本応用地質学会、日本情報地質学会、日本古生物学会、資源地質学会、日本堆積学会、日本第四紀学会、（独）産総研地質調査総合センター、日本科学未来館、北海道立地質研究所、神奈川県立生命の星・地球博物館、（社）全国地質調査業協会連合会、（社）東京地学協会、(NPO) 地質情報整備・活用機構（順不同）(2007年8月末現在）

地質の日記念行事

2008年5月に、全国の地質に関係する人たちと第1回の記念行事（一般向け）を行います。みなさまのご参加をお待ちしています。

planetearth® Earth Sciences for Society 2007-2009

地質の日事業推進委員会事務局：独立行政法人産業技術総合研究所地質調査総合センター
TEL: 029-861-9122、FAX: 029-861-3672　WEB: http://www.gsj.jp/geologyday/
ここに用いた地質図は100万分の1日本地質図第3版と（財）日本水路協会海洋情報研究センターが作成した標高データJTOPO30を使用して作成しました。

日本地質学会*News*

Vol.11 No.4 April 2008

The Geological Society of Japan *News*
日本地質学会/〒101－0032　東京都千代田区岩本町２－８－15
井桁ビル　６Ｆ
編集委員長　倉本真一
TEL　03－5823－1150　FAX　03－5823－1156
main@geosociety.jp（庶務一般）
journal@geosociety.jp（編集）
http://www.geosociety.jp

Contents

案内 ……2
(独)産業技術総合研究所地質調査総合センター第12回シンポジウム/第52回粘土科学討論会/第６回国際アジア海洋地質学会議：締切延長のお知らせ

公募 ……3
高知大学理学部理学科地球科学コース教員公募/千葉大学大学院理学研究科地球生命圏科学専攻地球科学コース教員公募

各賞・助成 ……3
JST委託開発（独創的シーズ展開事業）の平成20年度第１回・第２回課題募集/JST革新的ベンチャー活用開発（独創的シーズ展開事業）「一般プログラム」および「創薬イノベーション　プログラム」の平成20年度課題募集/平成20年度東レ科学技術賞および東レ科学技術研究助成候補者推薦/2009～2010年開催藤原セミナー募集/第５回日本学術振興会賞受賞候補者募集

紹介 ……5
リンネと博物学　自然誌科学の源流（増補改訂）千葉県立中央博物館　編（矢島道子）

CALENDAR ……6

ジオパークと“Rock”“Green”“Café”
（矢島道子）　……7

国際交流 ……9
木村会長とロンドン地質学会会長　懇談（矢島道子）

支部コーナー ……9
近畿・西日本・四国支部　2008年度近畿・西日本・四国　三支部合同例会/中部支部　年会シンポジウムの案内・個人講演受付/関東支部　第２回研究発表会「関東地方の地質」および支部総会のご案内

院生コーナー ……11
第９回沖縄放散虫ツアー参加報告（小久保晋一）

2008年の会費払込について ……12

学会記事　2007年度第10回理事会議事録 ……13

会費口座振替依頼書

表紙紹介（裏表紙）
眠未アフリカのBushveld火成岩体（20.5億年）（諏訪兼位）

日本地質学会第115年総会開催のお知らせ

日本地質学会第115年総会を下記の通り開催いたします．

日時　2008年５月25日（日）17：30～19：00
会場　幕張メッセ　国際会議場（3F・303会議室）

会則により，本総会は役員ならびに代議員による総会となります．ただし，正会員は総会に出席し，意見を述べることができます．
詳しくは下記HPをご参照ください．
http://www.geosociety.jp/outline/content0054.html

事務局営業カレンダー

お休み

5月/May

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

6月/June

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

注：5/25は代議員総会（in 幕張）

広告一部取扱：株式会社廣業社
〒104－0061 東京都中央区銀座8－2－9　電話 03－3571－0997　　印刷・製本：日本印刷株式会社

ご案内

本会以外の学会および研究会・委員会からのご案内を掲載します．

（独）産業技術総合研究所地質調査総合センター第12回シンポジウム

地下水と岩石物性との関連の解明～産総研のチャレンジ～

日時：**2008年5月8日（木）**13：00-17：30
（12：30開場，ポスター閲覧可能）
場所：秋葉原ダイビル5F　5B会議室
主催：産総研地質調査総合センター
入場無料　定員：100名
参加お申込み：地質調査総合センターのシンポジウムwebサイトからお申し込み下さい．
http://www.gsj.jp/Event/080508sympo/
お問い合わせ：地質調査総合センター
gsjsympo12@m.aist.go.jp

プログラム

13：00～13：05　開会の挨拶
～産総研の岩石力学実験の可能性～
加藤碩一（地質調査総合センター代表）
13：05～13：15
本シンポジウムの趣旨と構成
高橋　学（地圏資源環境研究部門）
13：15～13：50
【基調講演】
難透水性地層中の地下水流れ・物質移行の定量的評価に向けて　徳永朋祥（東京大学）
【一般講演】
13：50～14：15
AEによる地震発生過程に関する実験的研究
雷　興林（地圏資源環境研究部門）
14：15～14：40
亀裂面間のせん断変位と透水性変化
高橋　学（地圏資源環境研究部門）
14：40～15：05
圧密による泥岩中の亀裂の閉鎖と浸透率変化
高橋美紀（地質情報研究部門）
15：05～15：50　休息&ポスター発表

15：50～16：15
無次元理論解析による室内物質移行試験の設計・評価法の検討
竹田幹郎（地圏資源環境研究部門）
16：15～16：40
メタンハイドレート層内における流体流動の取り扱い－室内実験結果を基にしたシミュレーションへの適用
天満則夫（地圏資源環境研究部門）
16：40～17：05
クラックの構造からみた岩石の力学・透水挙動　竹村貴人（日本大学）
17：05～17：25　総合討論
17：25～17：30　閉会の挨拶
佃　栄吉（研究コーディネータ）

【ポスター】
P1　石の超微小変形とその制御―先端産業技術への貢献―　竹村貴人（日本大学）
P2　鉱物の脱水反応と地震発生メカニズム
高橋美紀（地質情報研究部門）・溝口一生・増田幸治
P3　三軸圧縮と三軸伸張試験における変形特性の差異について
高橋　学（地圏資源環境研究部門）
P4　メタンハイドレート堆積物の力学特性と構成方程式
宮崎晋行（メタンハイドレート研究ラボ）・桝井　明・羽田博憲・坂本靖英・山口　勉
P5　トレーサー試験などによる地熱貯留層内流体挙動の解析
柳澤教雄（地圏資源環境研究部門）
P6　三軸応力下の砂岩の力学特性に及ぼすCO_2圧入の影響
竹原　孝（地圏資源環境研究部門）・及川寧己・當舎利行

第52回粘土科学討論会

主　催：日本粘土学会
共　催：日本地質学会ほか
会　期：**2008年9月3日（水）～5日（金）**
会　場：沖縄ポートホテル（沖縄県那覇市西1-6-1，TEL. 098-868-1118）

講　演：
A．一般講演（口頭発表，ポスター発表，提案型セッション）
B．会長講演　坂本尚史（千葉科学大学）
C．シンポジウム「エネルギーと粘土」
一般講演の申込：
申込方法：日本粘土学会ホームページ（http://wwwsoc.nii.ac.jp/cssj2/index.html）からお申込みください．講演ごとに1通の参加申し込みフォームをお送りください．なお，発表者の内1名は本学会会員であることが必要です．Webページが使えない場合は，下記問合先（1）あてへお問い合わせください．
申込受付期間：2008年5月13日（火）12：00～6月10日（火）必着です．
参加登録料：
会員（共催学会員を含む）3,000円，
学生会員　1,000円，非会員　5,000円
講演要旨集代：3,000円
講演要旨締切：2008年7月25日（金）必着

懇親会：9月3日（水）18：30～　沖縄ポートホテル
会費：一般　6,000円，学生　3,000円
官製はがきに参加者氏名・所属を記入して，下記問合先（2）にお送り下さい．
見学会：9月5日（金）工業技術センター，やちむんの里－読谷，美ら海水族館，万座毛（ノジュール）（予定）会費：未定．官製はがきに参加者氏名・所属を記入して，下記問合先（2）にお送り下さい．

問合先（1）（講演・講演要旨送付先）：
〒903-0213　沖縄県中頭郡西原町千原1
琉球大学農学部　生産環境学科
農地環境管理学講座内
第52回粘土科学討論会実行委員会
金城和俊（渡嘉敷義浩　気付）
TEL. 098-895-8778　FAX. 098-895-8734
wa614@yahoo.co.jp

問合先（2）（懇親会・見学会申込先）：
〒903-0213　沖縄県中頭郡西原町千原1
琉球大学農学部　生産環境学科
農地環境管理学講座内
第52回粘土科学討論会実行委員会
渡嘉敷義浩
TEL. 098-895-8778　FAX. 098-895-8734
toka2841@agr.u-ryukyu.ac.jp

〒901-0155
沖縄県那覇市金城4丁目1番地3
サザンツーリスト株式会社
担当者・友寄兼造，玉寄哲也
TEL. 098-891-8000　FAX. 098-891-8005
tomoyose@salada.co.jp

第6回国際アジア海洋地質学会議：締め切り延長のお知らせ

2008年8月29日（金）～9月1日（月）の4日間，高知工科大学にて開催される第6回国際アジア海洋地質学会議（6th International Conference on Asian Marine Geology: ICAMG VI）の事前参加登録および講演要旨投稿の締め切りが，大幅に延長されました．

新しい締め切りは，6月25日です（登録料の早期割引も6月25日まで延長されます）．
皆様，奮ってご参加ください．

詳しくは下記公式ウェブサイトをご覧ください（日本語概要も閲覧できます）．
http://ofgs.ori.u-tokyo.ac.jp/ICAMG6/

問い合わせ先：
第6回国際アジア海洋地質学会事務局
TEL/FAX　088-878-2225/088-878-2192
Email : icamg6@m.aist.go.jp

公募

教官公募等の求人ニュース原稿につきましては，採用結果をお知らせいただけますようお願い致します．

高知大学理学部理学科地球科学コース教員公募

1．公募人員：高知大学理学部理学科地球科学コース　准教授または助教１名．着任後，資格審査の上，大学院修士課程も担当していただきます．なお，助教として採用する場合には，任期は５年（再任可）となります．
2．専門領域：古生物学・古環境学
3．資格条件：
(1) 博士の学位を有すること
(2) 地質調査の指導ができること
4．予定主要担当科目：地球科学コース専門科目（地史学，野外調査実習など）のほか，共通教育科目を担当していただきます．
5．採用時期：2008年８月１日（予定）
6．提出書類：(1) 履歴書：書式任意，ただし氏名，生年月日，現住所，連絡先（電話およびメールアドレス），高等学校卒業からの学歴，職歴，学位取得機関，取得年月と学位論文題名，賞罰を必ず記載のこと/(2) 研究業績一覧：原著論文，シンポジウムプロシーディング，著書，総説，解説，その他に分けて記載のこと（原著論文はレフリー制学術雑誌に掲載されたものとそれ以外のものが区別できるよう記載すること）/(3) これまでのおもな研究内容の解説（2000字程度）/(4) 教育業績一覧：大学等における講義・実験・実習等の担当履歴，学生の研究指導履歴，社会における教育普及活動等/(5) その他活動等一覧：学会等や社会における活動，所属組織内における活動，各種研究費取得歴等/(6) 研究業績別刷り各１部（原著論文についてはすべて提出，コピー可）/(7) 教育・研究に関する抱負（2000字程度．着任後の本学スタッフとの研究上の連携についても記述すること）/(8) 応募者について照会できる２名の方の氏名と連絡先（照会者に事前連絡は不要）
7．提出期限：**2008年５月16日（金）17時必着**
8．応募書類の送付先および照会先：
〒780-8520　高知市曙町2-5-1
高知大学理学部理学科地球科学コース
近藤康生
電話：088-844-8330，
e-mail：ykondo@cc.kochi-u.ac.jp
（「教員応募（地球科学）」と朱書きし簡易書留で送付すること）
9．選考方法：
書類選考後，面接，および30分程度の研究発表または模擬授業をしていただく予定です（旅費は応募者負担です）．

千葉大学大学院理学研究科地球生命圏科学専攻地球科学コース教員公募

1．職名・人数：准教授　１名
2．公募分野：野外において地球科学的手法を用いた調査・観測・実験に基づいて，学際的で新しい視点から地球表層の水圏・地圏でおこる過去から現在までの環境変動に関する研究を行い，その成果を将来予測に活かそうと試みている方．地球表層科学講座の教員と連携した共同研究や学内外での共同研究プロジェクトを積極的に推進する意欲のある方を希望します．
3．担当授業科目：普遍（教養）科目の授業科目と野外・室内実験，学部の授業科目と野外・室内実験，演習，卒論指導，および大学院博士前期課程ならびに博士後期課程の授業科目と特別演習，特別研究．
4．応募資格：博士の学位を持つ方
5．着任時期：決定後なるべく早い時期
6．応募書類：履歴書/業績リスト（査読論文とそれ以外を区別）/主要論文５編程度の別刷あるいはコピー/推薦状または所見を伺える方数名の氏名，連絡先等/これまでの教育・研究実績と千葉大学赴任後の教育・研究計画・抱負等（A４用紙２～３枚程度）
7．応募の締切　**2008年６月６日（金）必着**
8．応募書類の送付先ならびに問合せ先
〒263-8522　千葉市稲毛区弥生町1-33
千葉大学大学院理学研究科
地球生命圏科学専攻地球科学コース
2008年度地球科学コース長　伊藤谷生
E-mail : tito@earth.s.chiba-u.ac.jp
Fax : 043-290-2859
応募書類は必ず書留郵便で，封筒には「公募書類」と朱書して下さい．
9．個人情報について：
教員公募に関連して提供された個人情報は，選考の目的に限って利用し，選考終了後責任をもって破棄いたします．
10．その他：
選考の過程で，必要に応じて応募者にセミナーをしていただくことがあります．
地球科学コースホームページURL
http://www-es.s.chiba-u.ac.jp/

各賞・研究助成

日本地質学会に寄せられた候補者の推薦依頼をご案内いたします．推薦ご希望の方は締切日半月前までに，理事会までお申し込み下さい．

委託開発（独創的シーズ展開事業）の平成20年度第１回・第２回課題募集

■概要
新技術をもとに，JSTが開発実施企業に開発費を支出します．開発が成功の場合，開発費の返済（無利子）を求め，不成功の場合は開発費の支出の10%分についてのみ返済を求めます．残りの90%について開発費の返済を求めないことにより，JSTが開発のリスク負担を行って新技術の開発を促進します．

■フィージビリティ・スタディ（Feasibility Study：平成19年度より実施）
企業化開発の可能性を見極めるため，委託開発応募企業の中からPO（プログラムオフィサー）の評価によりフィージビリティ・スタディを実施します．

■応募対象者
開発実施企業が新技術の所有者と連名で申請する．新技術の所有者には，大学，独立行政法人などの公的研究機関または前記機関に属する個人が含まれていることが必要です．

■募集期間
第１回　2008年３月17日（月）～６月10日（火）17：00
第２回　2008年６月11日（水）～８月20日（水）17：00
（秋頃に第３回を実施予定）

■公募説明会の日程（予定）
東京　３月28日（金）/４月10日（木）JST東京本部　サイエンスプラザ　JSTホール
大阪　４月11日（金）大阪科学技術センター
公募説明会は，他の地域でも追加開催を予定しています．詳しくは，http://www.jst.go.jp/itaku/をご覧下さい．

＜お問い合わせ先＞
科学技術振興機構産学連携事業本部開発部開発計画課
〒102-8666　東京都千代田区四番町５番地３
担当：久保　亮，崎原久義
TEL：03-5214-8994　FAX：03-5214-8999
詳しくは，http://www.jst.go.jp/itaku/

革新的ベンチャー活用開発（独創的シーズ展開事業）「一般プログラム」および「創薬イノベーション　プログラム」の平成20年度課題募集

■概要
新技術をもとに，開発実施企業に開発経費を支出し，開発期間終了後に開発成果を実施して売上などの収入が計上された場合，売上に応じてJSTに実施料を支払います．JSTは，支払われた実施料からJST分を差し引き，大学等や新技術の発明者へ還元します．

■応募対象者

新技術の所有者の了承のもと，開発実施企業が申請します．新技術の所有者には，大学，独立行政法人などの公的研究機関または前記機関に属する個人が含まれていることが必要です．

【一般プログラム】

開発実施企業は，日本の法人格を有する設立登記後10年以内かつ資本金10億円以下の非上場企業であること．

【創薬イノベーション　プログラム】

開発実施企業は，高い研究開発能力をもとに，新しい技術の研究開発を実施できる日本の法人格を有する資本金300億円以下の企業で，自己資金単独では，当該開発が困難であること．

■募集期間

2008年3月17日（月）～6月10日（火）17時

■公募説明会の日程（予定）

東京　3月28日（金）/4月10日（木）JST東京本部サイエンスプラザ　JSTホール

大阪　4月11日（金）大阪科学技術センター

※公募説明会は，他の地域でも追加開催を予定しています．詳しくは，http://www.jst.go.jp/kaku-ven/をご覧下さい．

＜お問い合わせ先＞

科学技術振興機構産学連携事業本部開発部開発計画課

〒102-8666　東京都千代田区四番町5番地3

担当：久保　亮，堀内正隆，角野広治

TEL：03-5214-8994　FAX：03-5214-8999

http://www.jst.go.jp/kaku-ven/

平成20年度東レ科学技術賞および東レ科学技術研究助成候補者推薦

1．東レ科学技術賞（概要）

1．候補者の対象

学協会が関与する分野で，下記に該当するもの/学術上の業績が顕著なもの/学術上重要な発見をしたもの/重要な発明をして，その効果が大きいもの/技術上重要な問題を解決して，技術の進歩に大きく貢献したもの

2．科学技術賞

2件前後．1件につき，賞状，金メダルおよび賞金500万円

3．候補者推薦件数　1学協会から2件以内

4．推薦締切期日　2008年10月10日（金）弊会必着（学会締切9月10日必着）

2．東レ科学技術研究助成（概要）

1．候補者の対象　学協会が関与する分野で国内の研究機関において自らのアイディアで萌芽的基礎研究に従事しており，今後の研究の成果が科学技術の進歩，発展に貢献するところが大きいと考えられる若手研究者（原則として推薦時45才以下）

2．研究助成金　総額1億3千万円．1件3千万円程度まで10件程度．

3．候補者推薦件数　1学協会から2件以内

4．推薦締切期日　2008年10月10日（金）弊会必着（学会締切9月10日必着）

＊各推薦書用紙は，ホームページからもダウンロードできます．

http://www.toray.co.jp/tsf/index. html

問い合わせ先

財団法人東レ科学振興会

〒279-8555　千葉県浦安市美浜1-8-1

TEL（047）350-6103・6104

FAX（047）350-6082

E-mail　torayzaidan@tgnts.toray.co.jp

2009～2010年開催 藤原セミナー募集

趣旨　藤原科学財団は，科学技術の振興に寄与することを目的として，「藤原セミナー」の開催を希望する研究者から，下記募集要項に基づいて申請を受け，選考の結果採択を決定したものについて，セミナー開催に必要な経費を援助いたします．

対象分野：自然科学の全分野

応募資格：わが国の大学等学術研究機関に所属する常勤の研究者

開催件数：2件以内

開催費用援助額：1件につき　12,000千円以内（総額　24,000千円以内）

セミナーの要件：

(1) セミナーは，国際的にも学問的水準の高いものとし，そのテーマはなるべく基礎的なもので，関連分野を含めた発展に寄与するものであること．但し二国間会議，定期的に行われる国際会議，およびその準備会は対象としない．(2) 参加者は，50～100人程度とし，外国人研究者が参加者の5分の1程度含まれること．なお，国内外の優れた研究実績を有する若い専門研究者の参加を奨励する．**(3) セミナー開催対象期間は，2009年1月～2010年12月末日（4）セミナーの開催地は，日本国内であること．（原則として北海道苫小牧市或いは旭川市で開催）**(5) セミナー開催日数は，2－4日以内とする．(6) 参加者が，セミナー開催期間中，起居を共にすることを原則とし，計画された講演・討論のほか，個人的な討論など自由な雰囲気で学問的な交流と人間的接触を深め，永続する協力の基盤を作るようなものであること．

申請受付期間：**2008年4月1日（火）～7月31日（木）（必着）**

申請の方法：

セミナー開催希望者は，「藤原セミナー開催申請書」（1通）を，所属組織長を経由して当財団に提出すること．尚，著名な参加予定者については，セミナーのテーマに関する主要論文（5名以内1人につき1篇，コピーで可）を添付のこと．

申請書提出先・連絡先：

〒104-0061　東京都中央区銀座3－7－12

（財）藤原科学財団

TEL（03）3561-7736　FAX（03）3561-7860

http://www.fujizai.or.jp

第5回「日本学術振興会賞」受賞候補者推薦

趣旨：我が国の学術研究の水準を世界のトップレベルにおいて発展させるためには，創造性に富み優れた研究能力を有する若手研究者を早い段階から顕彰し，その研究意欲を高め，研究の発展を支援していく必要があります．この趣旨から日本学術振興会は，平成16年度に日本学術振興会賞を創設しました．

対象分野：人文・社会科学及び自然科学にわたる全分野

授賞：授賞数は20件程度とし，受賞者には，賞状，賞牌及び副賞として研究奨励金110万円を贈呈します．なお，日本学士院により，日本学術振興会賞受賞者の中から日本学士院学術奨励賞受賞者が選考されます．

対象者：国内外の学術誌等に公表された論文，著書，その他の研究業績により学術上特に優れた成果を上げたと認められる者のうち，2008年4月1日現在以下の条件を満たす者とします．

1）45歳未満であること　2）博士の学位を取得していること　3）外国人の場合は推薦時点において我が国で5年以上研究者として大学等研究機関に所属しており，今後も継続して我が国で研究活動を予定していること

8．受付期間：

2008年5月28日（水）～29日（木）（必着）

学会での締切：2008年5月15日（木）

（注：本賞は自薦での受付はありません）

推薦書等は，所定の様式を使用してください（HP参照）．

問い合わせ先

〒102-8472　東京都千代田区一番町8番地

独立行政法人　日本学術振興会

総務部　研究者養成課

「日本学術振興会賞」担当

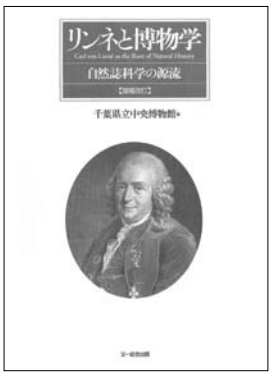
TEL　03-3263-0912　FAX　03-3222-1986

詳しくは，http://www.jsps.go.jp/jsps-prize/

紹　介

リンネと博物学
自然誌科学の源流（増補改訂）

千葉県立中央博物館　編



文一総合出版，2008年２月出版，Ａ４判，
298ページ，ISBN-9784-8299-0129-8,
定価15,750円（税込）

ロンドン地質学会は世界で初めて，1807年に創立され，現在，ロンドンのバーリントンハウスの右側に位置する．左側のほうに位置しているのはリンネ協会である．著書『自然の体系』で生物の分類方法を提唱し，二名法を確立したカール・フォン・リンネ（1707－1778）はスウェーデンの人なのに，世界で最初のリンネ協会はイギリスにある．リンネの死後，ジェームス・エドワード・スミス卿が1784年にリンネの標本を購入し，1788年にロンドン・リンネ協会を設立したからである．

昨2007年はリンネ生誕300年を記念して，世界中でさまざまな行事が行われた．千葉県立中央博物館は所蔵している『自然の体系』（Systema Naturae）初版をはじめ，多くのリンネコレクションの特別展を開催した．2007年５月に天皇陛下はロンドン・リンネ協会で基調講演をされ，その講演全文を付して，本書は出版された．

植物の名前のつけ方は『自然の体系』初版から議論されていたが，動物の名は1758年発行の『自然の体系』第10版から採用することが決められた．だから第10版のコピーはよくみかける．『自然の体系』初版（1735）を私は初めて見た．わずか12ページの本だが，54.7cm x 42cmの大判である．現在までに44部しか残っていないといわれている．初版の本物は千葉県立博物館所有のものが，アジアではひとつだけだそうである．12ページすべてのコピーと対訳が本書の第１部である．

初版の対訳を落ち着いて読むとおもしろいことが分かってくる．特に動植物以外の自然，すなわち鉱物や岩石をリンネがどのように見ていたかがよく分かる．すなわち鉱物界は自然の３界のひとつであり鉱物は成長するもので，植物は成長し，生きるもの，動物は成長し，生き，感覚を持つものと明瞭に区分されている．鉱物界は岩石・鉱物・発掘物（fossil）の３つの綱よりなり，発掘物綱には砂礫・砂・粘土などの土壌，軽石・鍾乳石・凝灰石などの凝結質，筆石・魚化石などの石化物の３つに分けられ，14の所見が書かれている．

第２部，リンネの著作・関連文献でも85ページに岩石・鉱物学に関するものが２点挙げられている．あまり独創的なものではないとされているが，18世紀の知識人たちの常識がよく分かる．第３部は，千葉県立博物館が所蔵しているリンネの大きなコレクションの解説で，美しい図版が多く，とても楽しい．リンネの43個のメダルに鉱物が入っているものが１個だけある．第４部の「自然誌科学の源流，リンネ」は，14年前の千葉県立中央博物館での特別展図録『リンネと博物学：自然誌科学の源流』（1994年８月21日刊行，千葉県立中央博物館，ISBNなし）をベースにしていると思われる．

本書は高価であるが，研究室や図書館で購入される価値は十分あると思われる．最後に目次を記しておく．

リンネ生誕300年記念行事天皇陛下基調ご講演
Linne and Taxonomy in Japan（Akihito）　vii
リンネと日本の分類学（明仁）　xv
1．リンネのしごと　1
自然の体系（初版）　3
2．リンネのしごと　2
リンネの著作・関連文献　41
3．リンネコレクションから
リンネ：クリフォード庭園のバナナ　101
ミラー：リンネの性の体系　103
カーチス：リンネの体系による植物学　106
伊藤圭介：泰西本草名疏付録　108
バーブット：リンネによる昆虫の属　110
ズルツァー：リンネの体系中の昆虫の特徴　111
スパルマン：スウェーデン鳥類学　113
リンネ：クリフォード庭園誌　117
リンネ：ラップランド植物誌　155
フォシュスコール：東方旅行における稀な自然物図説　167
リンネと関係者のメダル　173
4．自然誌科学の源流，リンネ
最高のナチュラリスト，リンネ（木村陽二郎）　183
分類学の黎明期における生物分類と種概念（直海俊一郎）　195
植物分類学の始祖としてのリンネと種名のタイプ（大場秀章）　211
植物と動物の学名について（天野誠）　217
リンネと医学（梶田昭）　225
リンネと生態学（沼田眞）　231
リンネと昆虫学（小西正泰）　237
リンネと鳥類学（桑原和之・茂田良光）　245
リンネと藻類学（宮田昌彦）　247
リネーとロシアの博物学者（小原敬）　257
リンネゆかりの旧クリフォート邸を訪ねる（大場秀章）　263
ロンドン・リネアン・ソサエティー：その歴史と現状（大場秀章）　269
ロンドン・リネアン・ソサエティー訪問記（林浩二）　275
資料
リンネ関係年表（大場達之）　280
リンネの学位・口述論文と『学問のたのしみ』（大場達之）　283
索引　292

CALENDAR

2008.5～

地球科学分野に関する研究会，学会，国際会議，などの開催日，会合名，開催学会，開催場所をご案内致します．会員の皆様の情報をお待ちしています．
☆印は，日本地質学会行事．

2008年

5月　May

○2008年度北海道支部総会・個人講演会・地質学講演会
5月10日（土）地質の日
場所：北海道大学理学部大講堂（予定）
地質学講演会「知られざるシレトコ－知床半島の地質－」
http://www.geosociety.jp/outline/content0023.html

★関東支部箱根火山見学会
5月17日（土）～18日（日）（1泊2日）
応募受付期間
3月18日（火）～4月18日（金）
http://kanto.geosociety.jp/

○日本地下水学会2008年春季講演会
5月24日（土）
会場：東京農工大学農学部（府中キャンパス）
http://www.groundwater.jp/jagh/

★日本地質学会第115年代議員総会
5月25日（日）17：30～19：00
会場：幕張メッセ国際会議場303会議室
http://www.geosociety.jp/outline/content0017.html

○日本地球惑星科学連合2008年大会
5月25日（日）～30日（金）
会場：幕張メッセ国際会議場
http://ww.jpgu.org

6月　June

★関東支部　第2回研究発表会「関東地方の地質」・支部総会
6月8日（日）10：00～17：00
会場：早稲田大学国際会議場第1会議室
http://kanto.geosociety.jp/

○Geoinforum2008　第19回日本情報地質学会総会・講演会
6月12日（木）～13日（金）
場所：北海道大学百年記念会館大会議室
http://www.jsgi.org/

○地質学史懇話会
6月22日（日）13：30～17：00
場所：北とぴあ9階902号室（JR京浜東北線王子駅下車3分）
上杉　陽：富士山宝永噴火
沓掛俊夫：弘法大師の地質観、自然観

★中部支部年会
6月28日（土）～29日（日）
28日：総会・シンポジウム「歪み集中帯とフォッサマグナ」
29日：地質見学（未定）
会場：新潟大学五十嵐キャンパス
http://www.geosociety.jp

7月　July

○日本古生物学会2008年年会・総会
7月4日（金）～6日（日）
場所：東北大学（宮城県仙台市）
シンポジウム：環境指標としての後期新生代微古生物学と古海洋学の進展（4日）
http://wwwsoc.nii.ac.jp/psj5

8月　August

○Internatinal Geological Congress OSLO 2008（The 33rd IGC）
8月6日（水）～14日（木）
http://www.33igc.org/

○第2回国際地学オリンピック
8月31日（日）～9月7日（日）
場所：フィリピン共和国
http://www.jpgu.org/ieso/

○6th International Conference on Asian Marine Geology
－Asian Waters explored by advanced research of 21st Century－
8月29日（金）～9月1日（月）
場所：高知市
http://ofgs.ori.u-tokyo.ac.jp/ICAMG6/

9月　September

○第12回岩の力学国内シンポジウム
9月2日（火）～4日（木）
会場：山口大学工学部（山口県宇部市）
講演原稿提出期限：5月16日（金）
http://www.mmij-kyushu.com/JROCK2008/

○第52回粘土科学討論会
9月月3日（水）～5日（金）
会場：沖縄ポートホテル
http://wwwsoc.nii.ac.jp/cssj2/index.html

○土木学会第63回年次学術講演会
9月10日（水）～12日（金）
場所：東北大学川内北キャンパス
http://www.jsce.or.jp/committee/zenkoku/h20/index.html

★日本地質学会第115年学術大会
9月20日（土）～22日（月）
場所：秋田大学
http://www.geosociety.jp

IYPE・地質の日関連行事

planetearth Earth Sciences for Society　5月10日は地質の日

○宮澤賢治ジオツアー
地質情報整備・活用機構（GUPI）　主催
日程　2008年5月17日（土）～18日（日）
（定員になり次第締切）
案内　加藤碩一（産業技術総合研究所）
詳しくは，
http://www.gupi.jp/kenji/kenji-tour.pdf

●第2回研究発表会「関東地方の地質」
日本地質学会関東支部　主催
日時　2008年6月8日（日）
会場　早稲田大学国際会議場　第1会議室
詳しくは，http://kanto.geosociety.jp/

●箱根火山見学会
日本地質学会関東支部　主催
日程　2008年5月17日（土）～18日（日）
1泊2日
講師　高橋正樹（日本大学文理学部）
詳しくは，http://kanto.geosociety.jp/

●2008年度北海道支部総会・個人講演会・地質学講演会
日本地質学会北海道支部　主催
日時：2008年5月10日（土）地質の日
場所：北海道大学理学部大講堂（予定）
講演会「知られざるシレトコ
-知床半島の地質-」
詳しくは，http://geosociety.jp/

●山陰海岸地質見学会
主催：日本地質学会近畿支部・山陰海岸ジオパーク推進協議会
日程：2008年5月11日（日）
見学内容：遊覧船にて浜坂-香住間の海岸線の地形・地質見学（花崗岩類・北但層群八鹿-豊岡累層，海食洞・柱状節理など）ほか
http://kinki.geosociety.jp/

このほかにも地質の日に関連した行事が多数企画されています．詳しくは，
http://www.gsj.jp/geologyday/event.html
をご参照下さい．

※●印は，学会が主催する行事です．

ジオパークと“Rock”“Green”“Café”

理事・**矢島道子**（地質情報整備・活用機構）

1．はじめに

日本国内にもジオパークをつくろうという動きが，あちらこちらで少しずつ見られるようになってきました．日本地質学会の中にもジオパーク支援委員会ができました．ジオパークの「ジオ」の部分をよく知悉していて，その知識・情報をジオパーク成立に役立てるのは地質学会会員の仕事と思われます．しかし，ジオパークは新しい概念を少し含んでいたため，UNESCOで考案している段階からIUGSやUNESCOといろいろな議論をへて現実化してきた事情もあり，ジオパークとはどういうものかをイメージすることはなかなか難しいところがあるように思います．2008年１月，四国ジオパークモデル地域調査に，世界ジオパークの生みの親で前UNESCO地球科学部長のウォルフガンク・エダーさんが来日されました．そのとき，私は通訳として，エダーさんと地域調査をともにしました．調査を通して，ジオパークについてそれなりの理解をえました．日本地質学会の多くの会員の方にジオパークを理解していただきたいと思い，３月の四国の報告会で報告した内容を本誌で整理してみようと思います．

2．ジオサイトとは

ジオパークの説明の際に必ず，図１のように，いくつかのジオサイトをジオパークという名前でひとつに括った図がでてきます．この図は抽象的なもので，理解はちょっと難しいです．まずスケールがありません．これはジオパークとして様々な広さが考えられるからです．そして，ジオパークとして括るためには，ある考え＝コンセプトが必要なのです．どういう考えでジオパークという傘を広げるかが問題となります．そして，ジオサイトとは，名称にジオがついているけれど，地質学的なことに限らないと私は思うようになりました．

3．“Rock”“Green”“Café”

エダーさんと一緒に高知から室戸に向かう途中で，海のよく見えるコーヒー屋さんに入りました．そのコーヒー屋さんは「ROCK GREEN CAFÉ」という名前で，入り口に赤地に白のペンキで店の名前が書いてありました．この看板にエダーさんは大変興味をもって，写真を撮っておられました．私は，英語としてもフランス語としても，文法的にも誤りだらけで，とても恥ずかしい感じがしていました．また，エダーさんがなぜ興味をもったのか，その時はわかりませんでした．４日間，一緒に旅をして，ジオパークを考えるときに，この“Rock”“Green”“Café”は重要であると気がつきました．そして，図２のような三重構造のモデルを考えるようになりました．

4．“Rock”のいろいろ

“Rock”はまさにジオパークのベースです．地質学的におもしろい事象のことです．エダーさんとともに訪ねたのは，地質学的なところでは，日沖の枕状溶岩，室戸岬斑レイ岩など，地理学的なところでは，長者地すべり地形，仁淀川の川筋などでした．また，高知大学海洋コア総合研究センターも訪問しましたが，エダーさんはそこで大変感激され，是非とも高知大学海洋コア総合研究センターがジオパークの中に含まれることを希望されました．つまり，高知大学海洋コア総合研究センターをジオサイトのひとつとすることです．

“Rock”はジオパークの基本的な構成要素です．図２のように

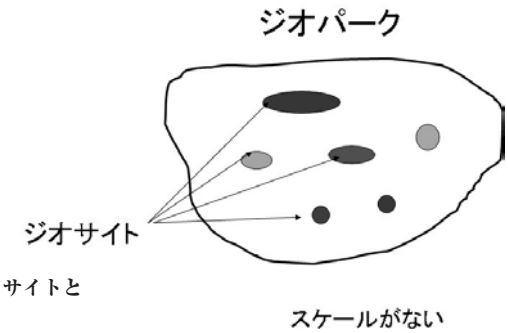


図１　ジオサイトとジオパーク

ジオパークの基盤です．そして，“Rock”は単に岩石ではなく，あるいは地質事象だけではなく，地理学的な事象，すなわち地形，河川，地下水等あらゆるものを含んでいます．と同時に，高知大学海洋コア総合研究センターに代表されるような上質の科学で研究されていることも重要な要素です．四国で訪問した地域では，説明版がもう少し配備されれば立派なジオサイトになると，エダーさんは感想を述べられていました．

5．“Green”のいろいろ

立ち寄った「ロックグリーンカフェ」は，海岸にはりだした大きな岩の上に，こんもりした木が生い茂っていて，緑が夕日の赤い海に映えてとても美しいところでした．エダーさんのイメージする“Green”は“Rock”の上に生活している植物，動物など，あるいはそれをひっくるめたエコロジーとか里山などの概念や，運動や，エコツーリズムなどをさします．四国では，室戸岬亜熱帯樹林および海岸植物群落を見学しました．サボテン，リュウゼツランなどが生い茂り，ブーゲンビリアも咲いていました．まだ春浅かったので，蝶は飛んでいませんでしたが，鳥は何種類も飛んでいて，鳴き声で何の鳥かわかるものもいました．

私たちは，何気なく町を歩いていても，沈丁花の香りで春を知り，家の前の小さな植え込みに植えられた草花を愛でています．野山に入れば，美しい花，にぎやかな昆虫たちに眼を奪われます．花の名前を知りたいと思います．できたら，窓辺で花を咲かせたいと思います．動植物は，私たちに身近です．

“Green”を愛でることは比較的普通に行います．でも“Green”から“Rock”に眼を移すことはあまりやりません．四国の報告会には高知県立牧野植物園の研究員が見えられ，「植物は動けないから，その生えている“Rock”に大きく影響されます．たとえば，蛇紋岩地域には特有な植物相があります．この研究は四国が発祥の地です．」と話されました．蛇紋岩地域の植生が他地域と違うことは，蛇紋岩地域の研究者は知っていますが，蛇紋岩を研究していないとあまり知りません．山登りを趣味としている人は，同じ高山でもコマクサの生えているところと生えないところがあることを知っています．でも，その違いが山を形成している岩石に基づいているらしいことを

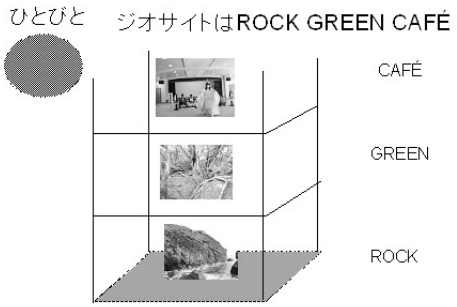


図２　“Rock”“Green”“Café”の３層構造．写真は上から池川のお神楽，室戸岬亜熱帯樹林，日沖の枕状溶岩

知っている人は数多くありません．あるいは，高山植物がよく見られるのは，崖錐の多い地形だということを知っている人も多くありません．

観光関係の方からはエコツーリズムはすでにビジネス段階に入っているという説明がありました．植物や動物が好きで山歩き，里歩きをしている人は増えてきたということです．この人たちにもっと「ジオ」を知ってもらいたいと思います．“Green”から“Rock”にもっと眼を向けさせる必要があるようです．

6．Caféのいろいろ

私たちは四国の「ロックグリーンカフェ」にお茶を飲むために入りました．Caféは楽しいところで，休むところです．Caféはもっと意味を拡大できます．誰でも楽しいと思うところです．四国では司牡丹など美味しいお酒のテースティングをしました．カツオ料理も楽しみました．吉良川では町並みを見学し，お蔵を利用したコーヒー屋さんでロック音楽を楽しみました．長者地域ではお神楽を楽しみました．もちろん四国を代表する八十八箇所の一つである最御崎寺にも行きました．途中でカヌーの発着所やハングライダーの基地があることも教わりました．ジオパークにもCaféが必要なのです．

Caféはもっとも卑近な食・芸術・スポーツ・町並み・宗教・文学等さまざまな分野に広がります．Caféとは楽しいところ，知的なところを意味します．池川のお神楽をみて，なぜここに，こんな文化が残っているか考えました．四国の特殊な歴史が思い浮かびました．その後，長者地すべり地を見学しました．非常に興味深い文化を見ました．なぜ地すべり地に高い文化が残っているのかを考えました．

四国の宗教もCaféと考えます．八十八箇所のひとつである最御崎寺では，お寺の独自の歴史の説明を聞きました．お経も聞かせていただきました．お寺自身がとてもおもしろい存在に感じました．空海が銅などの鉱山開発をよくしていたことを知っていましたが，その説明が不要なほど，お寺への坂道を歩く効果がありました．なんだか癒されるのです．ああ，「ジオパークへ行くと癒される」と多くの人が感じることが1番大切のように思いました．ジオパークで癒されて楽しいと思えば，リピーターになります．リピーターになって，何度も通ううちに「ジオ」の意味がわかってくればいいのではないかと思うようになりました．Caféはジオパークの入り口です．まずは，人々がジオパークにやってこなければ始まらないと思いました．

7．“Rock”“Green”“Café”を結びつけるのは

ジオパークにやってくる人々は地質学者たちではありません．素晴らしい“Rock”があっても，そんなに簡単に地質巡検はできません．まずは“Café”でジオパークを楽しみ，

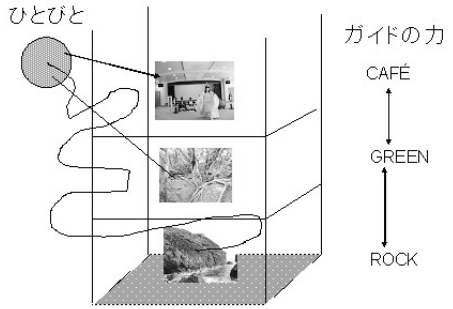


図 3　“Rock”“Green”“Café”を結ぶのはガイドの力

“Café”から“Green”を通して“Rock”へだんだんと近づいていくのでいいのではないでしょうか（図 3）．これは，誰か手引きしてくくれる人が必要です．ガイド，あるいは，最近の言葉ではインタプリターの力の見せ所です．でも無理にジオに結び付けないでください．折角ジオパークを訪れた人が「なんだかわからない」「なんだかとても難しい」と思われたら，二度とジオパークには近づいてくれないかもしれません．ジオを“Rock”をほんとうに愛している人が，その理解しているところをわかりやすく説明することが是非とも必要です．あるいは，ジオパークを訪れている人が“Green”や“Café”のレベルで知的なものを欲しているかもしれません．これらの要求に応えて，その上で，ジオの魅力を語っていく必要がありそうです．

8．活動のベースは博物館

おそらく，ジオパークができたときには，ジオパークの中にある自然史系博物館がジオパーク運動のベースになるのではないでしょうか．四国の見学した地域には，横倉山自然の森博物館と佐川地質館がありました．ジオパークを訪れる人は，まずは博物館にいって，少し説明を聞き，博物館を通して，ガイドさんを紹介してもらって，ジオパークの楽しみ方を習っていくのではないでしょうか．こういった活動は博物館にとっても，博物館の質の向上にずいぶん役に立つように思います．

9．日本型のジオパークをめざして

現在世界中で53箇所以上のジオパークが存在し，活動しています．日本はこれからです．ヨーロッパや中国の先達のジオパークをよく学んで，新しい，質の高い，日本型のジオパークを模索していきたいと思います．日本地質学会の会員の皆様，ジオパーク運動に一肌脱いで見ませんか．ジオパークのガイドは日本地質学会の会員がもっとも適しているように思います．“Rock”を知悉している会員が自ら“Green”と“Café”を学んで，ジオパークを最も楽しむ人になったらよいと思うのです．

国立公園地質リーフレットたんけんシリーズ1

「箱根火山たんけんマップ
一今，生きている火山」

新シリーズ登場！

A2版両面フルカラー印刷．
ハンディタイプで野外での観察に最適です．
教材としてもぜひご活用下さい．

小・中学生向け地質リーフレット新登場．
さあ！フィールドたんけんに出かけよう。

購入希望の方は、学会事務局まで．<main@geosociety.jp>　電話03-5823-1150

会員頒価　300円

国際交流　海外の学術団体との協力・交流活動をご紹介します

木村会長とロンドン地質学会会長　懇談

理事・**矢島道子**

ロンドン地質学会会長のリチャード・フォーティ氏がダーウィン展（於　国立科学博物館　3/18－6/22）開催を記念して，来日された．忙しい日程の中，３月19日，木村学地質学会会長と小一時間ほど，親しく懇談できた．

ダーウィン展は，2008年が日英外交関係樹立150周年にあたり，駐日英国大使館とブリティッシュ・カウンシルの展開する「UK-Japan 2008」の一環である．もちろん，2009年のダーウィン生誕200周年，『種の起原』刊行150周年記念の先駆けでもある．ダーウィン展はアメリカを出発して，世界各地を移動して2009年にイギリスに到着することになっている．リチャード・フォーティ氏はロンドン自然史博物館の三葉虫研究者であるが，その著書『生命40億年全史』や『三葉虫の謎』は世界的なベストセラーであり，1907年に世界で最初に創立されたロンドン地質学会200周年の記念事業を代表した会長でもある．

懇談は，東京大学大学院理学系地球惑星学教室で行われた（写真１）．ロンドン地質学会は大学と石油会社等の研究者からなる学会で，長い歴史がプラスにもマイナスにもなっているとまず紹介された．ロンドン中心街に土地使用料無料で学会を構えてきたが，最近有料になったこと，バースにある出版部は世界中に出版物を発信していることなどの特殊性があることも強調された．ロンドン地質学会のかかえる現在の問題として，石油会社から若い地質学者を多く要請されているが，その野外での調査の訓練があまりうまくいっていないこと，放射性廃棄物の地下処理の問題，アーカイブスの充実等，日本の地質学会がかかえている問題と共通な問題を抱えていることを確認した．ロンドン地質学会はフランス，アメリカの地質学会と協同してこれらの問題にあたっていると，述べられたので，問題は世界共通であり，日英の地質学会の協同もさらに進めて行くべきであることを確認して懇談は終わった．

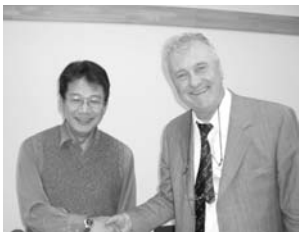


写真１

写真２

なお，佃副会長は，３月18日，国立科学博物館（上野）レストランで開催されたサイエンスカフェに出席し（写真２），サイエンスインタプリター養成の新しい試みを，フォーティ氏とともに体験した．写真３では，三葉虫の脱皮の様子をフォーティ氏は背広を脱ぎながら一所懸命説明している．

写真３

支部コーナー

☆近畿・西日本・四国支部　お知らせ

2008年度近畿・西日本・四国　三支部合同例会

来たる６月29日に近畿・西日本・四国支部３支部の合同例会を催します．今回は，兵庫県での丹波の恐竜化石発見に伴う公開講演会，兵庫県中部の中生界についてシンポジウムを企画しました．さらに，これに加え個別ポスター発表と近畿支部総会を開催致します．

皆さま，万障お繰り合わせの上，多数ご参加下さい．なお，個別ポスター発表希望の方は，以下の要領でお申し込み下さい．

日時：**2008年６月29日（日）10：30～**

会場：兵庫県立人と自然の博物館

プログラム

10：30-12：00　**「丹波の恐竜化石発掘」公開講演会**

三枝春生（兵庫県立人と自然の博物館）

12：00-13：00　（昼休み）ポスター発表コアタイム

「篠山層群周辺の地質発達史：兵庫県中央部の中生代」シンポジウム（一部の講演題名は仮題です）

13：00-　西南日本内帯中生代テクトニクス－篠山層群形成の地質的背景－　八尾　昭（大阪市大・理・地球）

13：20-　兵庫県中央部付近の丹波帯の構成と地質構造　栗本史雄（産総研）

13：40-　篠山層群の層序と地質構造　吉川敏之（産総研）

14：00-　（昼休み）ポスター発表コアタイム

14：30-　古地磁気からみた篠山層群赤色砂岩堆積場の古地理　森永速男・辻　真也（兵庫県立大・生命理学）

14：50-　兵庫県下とその近辺の白亜紀～古第三紀深成岩類の岩相と帯磁率　先山　徹（兵庫県立人と自然の博物館）

15：10-　兵庫県中央部における有馬層群とその関連火山岩類　吉田久昭（北野高校）

15：40-　近畿支部総会

個別ポスター発表申し込み要領：テーマ設定はしておりません．事前・事後の講演要旨作成の必要はありません．

申込先：日本地質学会　近畿支部　事務局　三田村宛　e-mail，fax にて，「三支部合同例会ポスター希望」，発表者名・所属・発表題名を明記のうえ，お申し込み下さい．

e-mail：mitamura@sci.osaka-cu.ac.jp，fax：06-6605-2522

申し込み締め切り：2008年６月２日（月）必着

ポスターサイズ：Ａ０版（縦118.9cm×横84.1cm）を限度とします．

☆中部支部　案内

中部支部年会シンポジウムの案内・個人講演受付

以下の日程で中部支部年会を開催します．

個人講演・地質見学会の参加申し込みを受け付けますので，締め切りまでにお申し込みをお願いします．

日時：**2008年６月28日（土）**

９：30-11：30　個人講演（口頭）

11：30-12：15　支部総会

13：00-13：45個人講演（ポスターコアタイム）

14：00-17：30ンポジウム「ひずみ集中帯とフォッサマグナ」
会場：新潟大学五十嵐キャンパス：自然科学研究科棟　大会議室

シンポジウム「ひずみ集中帯とフォッサマグナ」

「新潟－神戸ひずみ集中帯（仮題）」鷺谷　威（名古屋大学大学院環境学研究科附属地震火山・防災研究センター）

「中部日本の地質構造（仮題）」竹内　章（富山大学理学部），コメント：伊藤谷生（千葉大学理学部）

「北部フォッサマグナから飛騨山脈にかけての第四紀テクトニクス（仮題）」原山　智（信州大学理学部）

「ひずみ集中帯の総合的調査研究，その課題と展望」佐藤比呂志（東京大学地震研究所）

趣旨：地殻表層部における地殻変動として測地データをもとにしたごく最近の新潟－神戸ひずみ集中帯の事象と，糸静線を初めとするいわゆる地質構造区分とのギャップをどう考えるかを構造地質学的に，また，火成活動の視点からの問題提起も踏まえて討論します．併せて，今年度から始まるひずみ集中帯の調査研究プロジェクトの課題と展望について提起をお願いしました．多くの方々のご参加をお願いします．

2．地質見学会「中越東頸城丘陵の地形と地質構造」

案内：小林健太・豊島剛志・立石雅昭
ポイント：長岡平野西縁断層群を巡る変動地形と断層/中越沖地震による隆起海岸と活褶曲/東京電力による広域的地質構造解析結果
日程：2008年６月29日（日）バスをチャーターする予定
8：30　新潟駅前集合
17：00　新潟駅解散（希望があれば，長岡駅で解散も可）
参加費用：一般3000円　学生・院生2000円（昼食代　資料代含む）
定員：24名（定員になり次第締め切ります）

3．懇親会

2008年６月28日（土）18：00-20：00
会場　新潟大学五十嵐キャンパス構内
費用　一般・学生・院生　3000円

4．個人講演・見学会・懇親会等　申し込み要領

申込締切：５月30日（金）

添付ファイルを用いて，メールでお申し込みください．また，個人講演（口頭及びポスター）を申し込まれる方，ならびにシンポ講演者は同時に要旨をメールにて送付願います．注：後日，公表論文作成にあたって，支部年会での講演を引用することはできないことになっていますので，ご了承ください．

個人講演要旨はＡ４版，２頁までとします．シンポジウム講演要旨は　Ａ４版，10頁までとします．様式は下記書式に沿ってください．字体は明朝で統一します．お送り頂いたメール原稿を打ち出し，そのまま，コピー製版して印刷します．

上下余白：３cm　左右余白：2.5cm，タイトル：14p．太文字発表者・所属機関：12p．英文タイトル：12p．本文は１行開けて始めてください．本文：10.5p．引用文献：9p．図表は枠内に収めてください．

参加申し込み・講演要旨メール送付先（立石雅昭：m.tateishi3@gmail.com）

日本地質学会中部支部年会（新潟）準備委員会
〒950-2181　新潟市西区五十嵐２の町8050
新潟大学理学部地質科学教室内
TEL：025-262-6187（立石），-6199（豊島）
FAX：025-262-6194
準備委員長：宮下純夫
事務局：立石雅昭・豊島剛志・栗田裕司・小林健太・大河内　誠

☆関東支部　案内

第２回研究発表会「関東地方の地質」および支部総会のご案内

関東支部では，６月８日（日）に「関東地方の地質」に焦点をあてた研究発表会を開催いたします．これまで会員の皆様を中心にこの研究発表会での一般講演を広く募集したところ（３月末締切），お陰様で20件以上の申込を頂きました．予定されている講演はどれもたいへん興味深い最新の地質研究ばかりです．皆様，お誘い合わせの上，是非，本研究発表会にご参加ください．

なお当日は，研究発表会に引き続き2008年度支部総会も予定されております．あわせてご出席のほどよろしくお願い申し上げます．**支部会員の方で総会に欠席される方は委任状をお願いいたします．**

日　時：2008年６月８日（日）10：00～17：00
会　場：早稲田大学　国際会議場
参加費：無料（ただし講演資料集は有料）．どなたでも参加できます．本研究発表会は支部賛助企業による賛助金で運営されます．
プログラム：20件以上の個人講演と関東支部総会が予定されています．詳細は次号にてお知らせします．

委任状送付先：下記へ郵送またはFAXにてお送りください．
〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル６F
日本地質学会事務局気付　関東支部事務局
Fax : 03-5823-1156

＜委任状；2008年６月３日（火）必着＞

委任状送付先：〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル6F
日本地質学会事務局気付　関東支部事務局（FAX　03-5823-1156）

関東支部総会委任状

2008年６月８日（日）開催の日本地質学会関東支部総会に出席できませんので，当日一切の議決権を　　君（又は，議長）に委任します．

2008年　　月　　日

住　　所：

会員氏名：　　印

第９回沖縄放散虫ツアー参加報告

新潟大学大学院自然科学研究科
博士前期課程１年　小久保晋一

2007年11月25日から30日かけて琉球大学熱帯生物圏研究センター瀬底実験所において，第９回沖縄放散虫ツアーが開催された．この沖縄ツアーは，新潟大学の松岡篤先生が，現生放散虫に関心を持つ人達を募って沖縄の地で1997年より行っているワークショップである．松岡先生は，ニューヨークにあるラモント・ドハティ地球研究所のAnderson博士のもとで，現生放散虫の研究手法を学び，現在沖縄や佐渡で現生放散虫の研究を行っている．

第９回沖縄放散虫ツアーには，東北大学，宇都宮大学，筑波大学，東京大学，東洋大学，新潟大学，大阪市立大学，熊本大学，国立科学博物館，宇宙航空研究開発機構，海洋研究開発機構，大和証券といったさまざまな大学・機関からツアー過去最多の総勢24名が参加した（写真１）．今回のツアーでは，初参加の方が多かったことが特徴であった．ツアー中は，松岡先生から現生放散虫の研究手法の指導をうけた栗原敏之さん（新潟大）と石田直人さん（熊本大）がツアーのサポートをして下さった．

１日目：みんな瀬底実験所に全員集合！

2007年11月25日，私達は，それぞれ沖縄県本部町瀬底にある瀬底実験所に向かった．私は，那覇空港から菅森義晃さん（大阪市大）の運転する車で瀬底実験所に向かった．これから始まる放散虫ツアーでは，現生放散虫の観察以外に実験所の周辺で実際に海に入って海洋生物の観察をする実習がある．このことを聞いていた私達は，向かう途中でマスクシュノーケルセットを調達した（このとき，まさかシュノーケリングができず，返品することになるとは，まだ二人は知らない）．夕方，私達は，瀬底実験所に無事到着した．実験所内に入った私達の目に飛び込んできたのは，先に到着していた人達が，明日から観察する顕微鏡の設置をする様子であった．これは，当日採取した現生放散虫をすぐ観察するための準備作業である．なぜなら，現生放散虫の研究は，時間との闘いである．その後，顕微鏡の設置が終わり，参加者が全員集まったところで，放散虫ツアーのガイダンスが開かれた．参加者達は，明日のプランクトンの採取に期待を膨らませていた．その日は，全体でお酒を飲むこともなく，翌日の乗船に備えて早めに就寝した．

２日目：いざ，海上に！放散虫採取・観察

プランクトンの採取当日，近づく台風の影響で出航中止の可能性もあったが，参加者の日頃の行いが良かったせいか，無事出航することができた．今年は，参加人数が多かったので，酒井豊三郎先生（宇都宮大）と鈴木紀毅先生（東北大）は乗船せず，陸から私達を見送って下さった．出航して移動すること10分，採取地点に到着．瀬底島周辺の表層海水より，プランクトンネット（開口部が50cm×50cm，ネット長が１m，目合いが44μm）を曳いてプランクトンの採取を行った．表層海水の温度は，24℃，台風の影響で波の高さが心配されたが比較的波は穏やかであった．その中で，約１時間半に渡り，栗原さんの指導のもと，揺れる船上で悪戦苦闘しながら，参加者が交代でプランクトンネットを計６回曳きプランクトンの採取を行った（写真２）．数名が気分を悪くするものの，倒れる人も出ず，無事採取を終了し，実験所に戻った．帰還後，すぐに双眼実体顕微鏡を用いて採取したプランクトン試料中から放散虫の分離作業と観察を行った（写真３）．放散虫の観察方法については，松岡先生が冗談を交えながら説明してくれた（写真４）．放散虫を観察するための分離作業は，シャーレに入ったプランクトン試料から放散虫をピックアップし，６穴シャーレなどに移しかえる作業である．初めて現生放散虫を観察する人にとって，鏡下に広がるたくさんのプランクトンの中から放散虫を見つけるのは至難の業である．さらに，目的外のAcantharia目放散虫を除外しながらピックアップしなければいけない．Acanthariaとそれ以外の放散虫の区別がつかないと研究対象の放散虫をピックアップするのは難しいため，放散虫に目が慣れるまで時間がかかる．実際に，今回の参加者の大半が初めて現生放散虫を観察する人達だったので，放散虫を認識するまでには時間がかかっていた．中には，なかなか放散虫が見つけられず，ショックを受けて不貞寝をしてしまう人もいた．しかし，日頃から放散虫化石を観察しているだけあって，一度認識し始めるとその後は，たくさんの放散虫を見つけ夢中でピックアップしていた．ほとんどの人が，動いている色のついた放散虫を観察して歓喜の声をあげていた．一度，観察した人にしかわからないが，生きている放散虫は，とても美しい．私は，現生放散虫を観察することが２回目ということもあり，たくさんの種類の放散虫をピックアップすることができた．次に，ピックアップした現生放散虫1個体を倒立顕微鏡を用いて観察し，デジタルビデオ撮影や静止画像の撮影を行った．倒立顕微鏡の数が限られていたため，倒立顕微鏡の使用予約は，24時間埋まっていた．寝る間を惜しんで放散虫を観察する人もいた．

写真１：第９回沖縄放散虫ツアー参加者集合写真．

２日目：現生放散虫観察２日目

引き続き双眼実体顕微鏡や倒立顕微鏡を用いて放散虫の観察を行った．ピックアップした放散虫は，シャーレ内の安定した環境におかれたためか，仮足を伸ばしたり縮めたりし，活動的であった．午後からは，共焦点レーザー顕微鏡を用いて放散虫内に生息する共生生物の観察をした．夕方，放散虫をピックアップし終えたプランクトン試料を有機物や炭酸塩殻などを溶解し珪酸殻だけを残すために硫酸で処理をした．その日の夕食は，石田さんの腕によりをかけた料理を参加者全員でおいしく食べた．その後，自己紹介を兼ねた研究発表を行った．放散虫関係者だけあって，議論ははずみ，一人30分の予定がいつのまにか一人１時間になり，深夜まで議論は続いた．５時間に渡る発表を終え，そのまま飲み会に移行し，さらに親睦を深めた．

４－５日目：研究発表・自己紹介＆沖縄観光

４日目の当初の予定では，実験所の周辺で実際に海に入って海洋生物の観察をすることになっていたが，台風の影響で外に出ることもできず，あえなく中止になった．昨晩に続き，自己紹介を兼ねた研究発表を行った．一日に渡る発表にもかかわらず，皆，疲れを忘れ，集中して聞き，熱い議論が行われた．これだけの人数が発表す

院生コーナー

写真２（左）：船上で，プランクトンネットを曳く様子．写真３（中）：夢中になって，現生放散虫をピックアップする参加者．
写真４（右）：松岡先生から指導を受ける参加者．

るだけあって，様々な時代の放散虫の話が飛び交っていた．参加者間では，現在実施している研究についての情報交換がなされた．夕方には，前日に硫酸処理をした試料を水洗いし，ふるい分けをした試料を管瓶に詰めた．また，この２日間観察した放散虫も管瓶に詰めた．この２つの管瓶は，私にとって放散虫ツアーのお土産となった．夕食は，参加者全員で本部の町のお店へ行き沖縄の郷土料理を堪能した．その後，実験所に戻り酒井先生の発表を聞き，そのまま飲み会に流れ込んだ．５日目は，予備日ということで，参加者全員で沖縄美ら海水族館に行った．世界一を誇る巨大アクリルパネルから見られる巨大なジンベエザメは，大迫力だった．また，水槽内の沖縄のサンゴや海洋生物を見学することで，沖縄の海の素晴らしさを実感することができた．私達が，この放散虫ツアーで観察した放散虫もこの多様な海洋生物と共存していることを考えると，海の神秘さを考えさせられた．実験所に戻った後，第９回沖縄放散虫ツアーを締め括る飲み会が開かれ，楽しく飲むことができた．飲み会後，同じ研究分野の人達で勉強会が開かれ，熱い議論が続いた．

６日目：第９回沖縄放散虫ツアー無事終了

第９回沖縄放散虫ツアーも本日で終了し，実験所にて解散した．この放散虫ツアーの５日間の濃密な実習は，あっという間に過ぎ，とても勉強になった．普段観察している放散虫化石とは違い，生きている放散虫を観察することは，とても新鮮だった．現在研究している放散虫化石も，昔は今回観察した放散虫のように，仮足を伸ばし動いていたと考えると，とても興味深く感じられた．また，他大学の教授や学生との交流を深めることもでき，参加して大変良かった．

最後に主催者である松岡先生，サポートして下さった栗原さんと石田さんには参加者を代表して感謝の意を示したい．来年は，記念すべき第10回沖縄放散虫ツアーということで，研究発表会も合わせて企画されるとのことである．毎年，さまざまな方々（放散虫関係者から放散虫研究に携わっていない方）も参加しているので，興味を持った方はぜひ参加してみてはどうだろうか．

常時投稿をお待ちしています．院生コーナーの編集は現在以下の４名でおこなっています．原稿はe-mailでいただければ幸いです．

tsuji@sci.ehime-u.ac.jp　辻　智大（愛媛大）
s059702@matsu.shimane-u.ac.jp　河野重範（島根大）
duketogo13@hiroshima-u.ac.jp　東郷徹宏（広島大）
v.fonda@akane.waseda.jp　本田豊也（早稲田大）

2008年の会費払込について

2008年４月～2009年３月の会費額は下記の通りです．未納の方には督促請求書を送付いたしますが，早急にご送金をお願いいたします．督促請求は５月末頃の予定です．

基本的な請求額は下記①です。アイランドアークを冊子購読されている方は②の金額を加算します．

会員資格	①2008年４月～2009年３月分会費	②アイランドアーク購読料（購読者のみ請求）
正会員	12,000円	8,000円
〃　院生割引　※	8,000円	6,000円
準会員（学部学生）	5,000円	6,000円

※注：大学院に在籍し，定収のない方で所定の申請をされた方のみに適用します．2008年度分までの申請受付は既に終了しました．

１．次回自動引き落としについて（2008年およびそれ以前の会費が未入金の方対象）

次回は，６月23日（月）に引き落としの予定です． まだ会費を未入金の方で今後自動引き落としを希望される方は，「自動払込利用申込書」（ニュース誌巻末掲載）をご利用の上，**５月12（月）までにお申し込み下さい．**

２．自動引き落としの新規申込を受け付けています．登録口座変更の場合もあらためて申込書をお送り下さい．

学会としては，自動引き落としによる払込をより多くの会員に積極的に採用していただきたく，ご理解とご協力をお願いいたします．申込は随時受け付けています．

（日本地質学会会計委員会）

学　会　記　事

2007年度　第10回理事会議事録

2008年３月24日
日本地質学会　会長　木村　学

期　日：2008年３月８日（土）
12：45～15：45
場　所：地質学会事務局
出席者：木村会長，伊藤副会長，佃副会長，渡部常務理事・天野副常務理事・上砂・狩野・藤本・向山・宮下・矢島　各理事，橋辺（事務局）
欠席者：Wallis・公文・倉本・斎藤・中山・久田
＊成立員数（12/17）に対し，出席者　11名，委任状　６名，欠席者　０名で，理事会は成立．

報　告

１．運営財政部会（部会長-上砂，中山，向山，倉本）
総務委員会（委員長-上砂）
・学術会議「総合工学委員会工学基盤における知の統合分科会：「科学研究費補助金システム改革検討ワーキンググループ」よりアンケートへの協力依頼があり，各専門部会長にも意見聴取をしたが返答がなかったので，倉本理事がまとめて回答した．
・学術会議より国際コンソーシアムへの取り組みについてアンケート依頼があり，国際交流担当の公文理事が取りまとめて回答した．
・学術会議より公益法人についてのアンケート依頼があり，理事間確認の上回答した．
・東レ科学技術研究助成に，地質学会から応募した東大の加藤泰浩会員の「同位体を指標とする固体地球の応答の解明」が採択された．
・科学教育研究協議会より第55回全国研究大会（石川県加賀市，8月２日－４日）の後援依頼があり，例年通り承諾した．
・日本年度学会より第52回粘土科学討論会（沖縄県那覇市，9月３日－５日）の共催依頼があり，例年通り承諾した．
・新潟大学災害復興科学センター長の交代挨拶：新センター長　仙石正和氏
・「科学の芽」賞（筑波大学，朝永振一郎記念）の実施報告書，応募総数846件，受賞者20件（小10，中９，高１）
会員関係（担当理事-中山）
１）入会者４名
（正１）平塚延幸
（準３）津田龍一　田中麻衣
Wu　Lan
２）退会者　１社+74名
（賛助１社，正69，院４，準１）
３）２月末日会員数
賛助34，名誉74，正4,426（うち院273），準39，合計4,573（前年同期比　－59）
４）除籍予定者　正125名　2004年からの滞納者

関連学会連合（担当理事-天野）
地理関連学会連合
・第10回総会（3/28）開催：天野理事出席予定

地球惑星科学連合（久田連絡委員）
・公開討論会および第７回評議員会の開催通知と討論会（3/14，13：00）への出席依頼があった．伊藤副会長，宮下理事，橋辺事務局長が出席の予定．

・国際地学オリンピック日本委員会準備委員会（久田）
１）応募者数は356名となった．
２）地学教育委員会からの推薦で地学オリンピック小委員会委員として活動された，香東会員は学校業務多忙のため，地学オリンピック日本委員会発足とともにオブザーバーとなった．ついては，地学教育委員会から総務部会（主査　久田）あるいは広報渉外部会（主査　伊藤 孝（茨城大学））の副主査の方１名を推薦して欲しいとの依頼があった．これを受けて，地質学会からは有山，石川，矢島を推薦することとした．

会計関係（担当理事-向山）
・地質学用語辞典集委員会より地質学用語集（デジタル）の印税の全額寄付申入れがあった．

広報委員会（担当理事-倉本）
ニュース誌編集小委員会（担当理事-倉本）
インターネット運営小委員会（委員長-坂口有人）

２．学術研究部会（部会長-公文，）
国際交流委員会（公文　国際特任理事）
・タイ地質学会との交流記念楯を作成し，久田理事が持参する．

３．編集出版部会（部会長-狩野，久田，宮下，Wallis）
地質学雑誌編集委員会（委員長-狩野　副委員長-久田，宮下＝企画担当）
・今月の編集状況は以下の通りです（３月７日現在）．
114-3月号：論説３・短報１・口絵１（48ページ・校正中）
114-4月号：教育特集号（総説５），一般論文（論説１　短報１　ノート１）（入稿準備中）
・2008年度度投稿論文総数16編［論説８（和文７　欧文１），総説６（和文６）短報１，討論１］
・投稿数昨年比　＋４　査読中　48編　受理済み　７編（うち　報告１，ノート１を含む）
・地質学雑誌表紙新デザイン募集状況　２件（3/7現在）

企画部会報告（宮下）
・特集号「最終間氷期の環境変動－日本列島陸域と周辺海域の統合を目指して－」査読中
・特集号「プレート沈み込み帯と地震」（世話人　廣野哲朗ほか）投稿準備中（8/9件投稿済み）残り１編が投稿された時点で受付，査読開始予定．
・特集号「日本海沿岸褶曲・断層帯の形成・成長と地震活動」（世話人　高木秀雄）投稿準備中：３月頃？

Island arc編集委員会（担当理事-Wallis，事務局長-竹内圭史・角替敏昭）
１）井龍・前川新体制による編集が始まった．
08年新規投稿７編．
２）2008年編集状況
2008年17巻の新契約ページ数は620p.予定（07前借り30pの件は要確認）
１号　Pictorial１編，一般10編，182p.定期より１ヶ月早く２月下旬発行済み．
２号　Pictorial１編，一般６編，102p.見込み．校正済み，近日Online Early公開見込み，発行６月予定．
３号　受理原稿２編
３）特集
板谷特集：６編中受理２編も，17-3号掲載は厳しいか？
久田特集：24編中12編受理，まずは順調に進行中．17-4号・18-1号分割掲載を予定．
HKT（ヒマラヤ）特集：８編中１編受理．掲載は18-3号を予定．
４）投稿のトラブル
海外からの投稿原稿は査読プロセスを経て，微修正の段階に入りましたが，内容は既に外国語で出版された論文と酷似していることが判明しました．
編集委員長（旧・新）で確認したところ，図と表は殆ど同じであるものの，テクストは完全にだぶらないことがわかりましたので，２重投稿に当たらないと判断しました．

ただし，もとの外国語の論文は引用されておらず，大幅な見直しが必要となったので，著者に編集側の判断を説明し，再投稿を促した上で，原稿をrejectしました．

5）Island Arc Awardの近況

Island Arc Awardは，選考検討委員会（巽　好幸委員長）でメールによる投票と議論を行った結果，Oh Chang Whan（呉　昌桓）氏を推薦することが決定された．推薦文，略歴，履歴書，写真などは事務局と各賞選考委員長に送付してあり，本人に内定を伝えた．本人からは9月の秋田の年会に出席するとの意思表示があった．

4．普及教育事業部会（部会長-矢島，藤本）

5．その他

ジオパーク推進委員会（担当理事，佃委員長）

・ジオパーク支援委員会のメンバーならびに委員長は最終的に以下のように決定した．委員会は5月に発足予定で，それに伴い推進委員会は解散する．
天野一男（委員長），田近　淳，竹谷陽二郎，立石雅昭，三田村宗樹，高橋治郎，大木公彦，高木秀雄（日本ジオパーク委員会委員），矢島道子，渡辺真人

学会就業規則整備委員会（委員長-立石雅昭）

就業規則改正案を理事会に答申．

就職支援ワーキンググループ（委員長：伊藤）

・3月11日（火）に第1回目委員会を開催した．
・委員は，伊藤，矢島，向山，小松原（産総研），成瀬（千葉大）となった．

6．選挙管理委員会（委員長-加藤潔）

【以下，理事会および評議員会の下の委員会】

名誉会員推薦委員会（伊藤副会長）

・2月15日〆切で名誉会員候補者6名の推薦があり選考中．

○メール審議事項

1．各賞選考への理事会推薦委員会の本年度の運用について，選考委員長，選考検討委員会委員長，関係の推薦委員にたいし文書による説明とお詫びした．

○審議事項

1．地層処分に関するリーフレットの企画について

地質環境の長期安定性研究委員会の吉田委員長並びに高橋委員からの説明を受けた．

・日本の地質に関する客観的データを分かりやすく紹介するパンフレットを作成する．
・対象は一般市民
・いろいろな立場の方の資料として使えるもの
・理事会で進行を見守ることを条件に企画を進めることを承認した．

2．来年度事業方針会長文書の確定

3．来年度事業計画と，対応した予算計画の最終案確定

4．来年度選挙活動に向けた改善案

・平成19年度選挙管理委員会からの意見書が紹介され，検討した．

1）推薦者のあり方
・個人名の推薦者は可．
・組織推薦は無い旨をはっきりさせる．

2）マニフェストについて
・質問状は私文書扱いとする．
・討論会などを開催することを検討する．
・マニフェストは投票開始前に公表する．ニュース誌に公表．

3）選管の専用MLの必要性

4）会員からの質問状への対応

5）ボールペン書きの投票用紙への対応

6）立会人のあり方

5．政治活動等についてのガイドライン案

・12日の法務委員会において理事会案を審議することとした．

6．除名申し立てにかかる学会手続きの策定

・法務委員会からの報告を受けた．
・法務委員会への要望：明文化された規定の範囲では，対応が不可の部分がある．幅をもった判断をしていく必要がある．
・法務委員会から評議員会へ報告を行い，議論する．

7．法人化対応の作業委員会メンバー確定

・委員会は4月以降発足予定
渡部・天野（正・副常務理事）　上砂（総務担当理事）　向山（会計担当理事）
藤本光一郎（理事）坂口有人　佐瀬和義（要請中）
オブザーバー　　篠原顧問会計士，高木顧問弁護士，山本司法書士（監事）

8．秋田大会への理事会としてのサポートの具体的内容

・同時開催の情報展の準備の進展を含めて，次回に行事委員会から報告されることとなった．

5．学会就業規則の改正案答申

・委員会より就業規則（案）が提示され，了解された．一部細目について委員会との確認を行う．

10．その他

1）評議員会議題について
1．2007年度決算（案）および2008年度事業計画，予算案について
2．各賞選考結果について
3．名誉会員候補者の推薦について
4．除名申し立てにかかる学会手続きの策定について
5．選挙手続きの改善について
6．その他

2）総会議案について→3月号News誌に掲載

総会の期日および会場については予定通り連合に申し込み済み．
会期は，5月25日（日）17：30～19：00，終了後20：00まで評議員会．

1．開会
2．議長選出
3．議案
1　2007年度事業経過報告
2号議案　2007年度決算報告
3号議案　選挙結果の報告
―――新旧代議員・役員の交代―――
4号議案　2008年度事業計画について
5号議案　2008年度予算案について
6号議案　名誉会員の推薦について
4．閉会

（金融機関用）　　平成　　年　　月　　日

預金口座振替依頼書
自動払込利用申込書（収加）

私は、SMBCファイナンスサービス株式会社から請求された金額を私名義の下記預金口座から預金口座振替によって支払うこととしたいので、預金口座振替規定を確約のうえ依頼します。

収納代行会社	SMBCファイナンスサービス株式会社	振替日	6日・23日（金融機関休業日の場合は翌営業日）

（フリガナ） 申込人名		申込人住所	〒 ☎

ゆうちょ銀行以外の銀行またはゆうちょ銀行のどちらか一方に記入して下さい。

ゆうちょ銀行以外の銀行

金融機関コード		支店コード		預金種目（どちらかに○印）	口座番号（右詰めでご記入ください。）
銀行 信用金庫 組合		本店 支店 出張所		1. 普通 2. 当座	
（フリガナ） 口座名義人	法人の場合は、社名、代表者 役名、氏名を省略せずご記入ください。			金融機関お届け印	印

捨印（ゆうちょ銀行を除く）

ゆうちょ銀行

（フリガナ） 口座名義人	法人の場合は、ゆうちょ銀行へお届けの社名、代表者 役名、氏名を省略せずご記入ください。	ゆうちょ銀行お届け印	印

種目コード	契約種別コード	通帳記号	通帳番号（右詰めでご記入ください。）
1 6 6	3 0	1 0 の	

払込先口座番号	00110－5－58830	払込先加入者名	SMBCファイナンスサービス株式会社

ご注意！ 金融機関へのお届け印ですか

〈収納企業使用欄〉

収納企業名	日本地質学会	料金等の種類	会費等
契約者番号	委託者コード 1 8 4 7 6 0 0 0	顧客コード 0 0 0 0 0	

―預金口座振替規定―　※ゆうちょ銀行払いは除く。

1. 銀行（金庫・組合）に請求書が送付されたときは、私に通知することなく、請求書記載金額を預金口座から引落しのうえ支払ってください。この場合、預金規定または当座勘定規定にかかわらず、預金通帳、同払戻請求書の提出または小切手の提出はしません。
2. 振替日において請求書記載金額が預金口座から払戻すことのできる金額（当座貸越を利用できる範囲内の金額を含む。）をこえるときは、私に通知することなく、請求書を返却してもさしつかえありません。
3. この契約を解約するときは、私から銀行（金庫・組合）に書面により届出ます。尚、この届出がないまま長期間にわたり会社から請求がない等相当の事由があるときは、特に申出をしない限り、銀行（金庫・組合）はこの契約が終了したものとして取扱ってさしつかえありません。
4. この預金口座振替についてかりに紛議が生じても、銀行（金庫・組合）の責めによる場合を除き、銀行（金庫・組合）には迷惑をかけません。

ゆうちょ銀行をご指定の場合は自動払込み規定が適用されます。

金融機関使用欄

（不備返却事由）
1. 預金（貯金）取引なし　3. 印鑑相違
2. 記載事項等相違
　店名、預金種目、口座番号、通帳記号、通帳番号、口座名義
4. その他（　　）

備考

検印	印鑑照合	受付印	

取扱店日時印

（金融機関へのお願い）
この預金口座振替依頼書・自動払込利用申込書に不備がありましたら、不備返却事由欄の該当項目に○印をつけて速やかに右記不備返却先へご返送ください。

（不備返却先）
SMBCファイナンスサービス㈱決済ビジネス事務部
〒108-6350 東京都港区三田3-5-27 ☎03-5444-1533

◎書類の流れ　お客様→収納企業→SMBCファイナンスサービス→金融機関

裏面のりしろ①

キリトリ線

80円
切手
貼付

101-0032

東京都千代田区岩本町
二丁目八―一五　井桁ビル内

日本地質学会

御中

オリ線

住所

氏名

オリ線

裏面のりしろ③

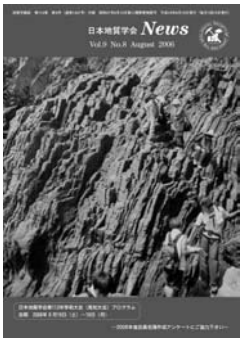
キリトリ線

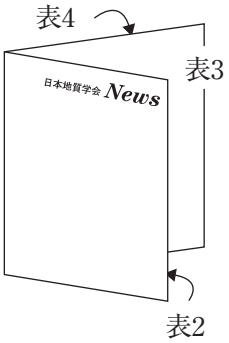
裏面のりしろ②

広告募集

News誌に広告を掲載しませんか.

News誌の掲載広告を募集しています．学会の直接取り扱いになりますので，カラー印刷・掲載サイズなどご相談に応じます．ぜひご利用ください．





＜広告掲載価格表＞

	価格（モノクロ）	版下作成	カラー
表 4	60,000	＋10,000	＋10,000
表 2	50,000	＋10,000	－
表 3	40,000	＋10,000	－
普通	35,000	＋5,000	－

（単位：円）

申込・問い合わせ：日本地質学会事務局
電話　03-5823-1150　FAX　03-5823-1156
e-mail ; main@geosociety.jp

研究室のミニ工場

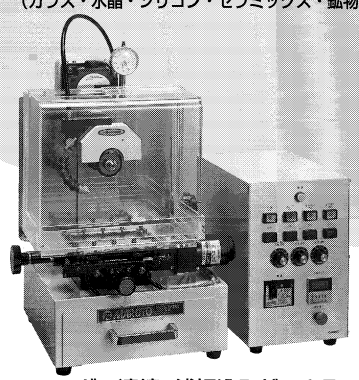
マルトーの
ラボ・ファクトリープラン3点セット

小型　精密　操作簡単　低価格

（ガラス・水晶・シリコン・セラミックス・鉱物・金属材料などの加工）

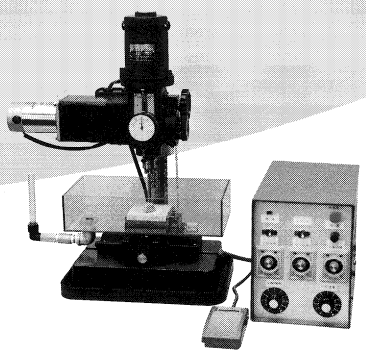
小さな機械だが役に立つ

磨く　切る　抜く



カッティング　連続・浅切込みができる
ステップカッター〔MC-170〕
●試料へのダメージが少ない
●最小切込み量 10μm／pass
●最大加工能力 H25×L40mm
●設置面積 W550×L450mm
●本体価格 178万円～

ポリッシング　精密鏡面研磨機
ドクターラップ〔ML-180〕
●組織検査用試料のラッピング・ポリシング
●アクセサリー豊富
●研磨試料サイズ φ1～φ100mm
●設置面積 W400×L400mm
●本体価格 45万円～



コアリング　微小径コア抜き取り機
ミニピッカー〔MG-5N〕
●主軸回転数 4000～12000r／min
●加工能力 φ1～φ6mm×30mm
●設置面積 W600×L400mm
●本体価格 125万円～

材料を切る・削る・磨くそして測る技術で奉仕する

http://www.maruto.com

株式会社マルトー
本社／〒113-0034 東京都文京区湯島1-1-10 ☎東京(03)3251-0727(代表) FAX:東京(03)3251-2478
福岡連絡事務所／〒815-0033 福岡市南区大橋1-21-5 岩田ビル ☎福岡(092)512-2755 FAX:福岡(092)561-4288

表紙紹介

南アフリカのBushveld火成岩体（20.5億年前）
Bushveld Igneous Complex（2.05 Ga-old）in South Africa

諏訪兼位　Kanenori Suwa

写真1（表上）. Bushveld 火成岩体の臨界帯（Critical zone）上部の斜長岩層．2枚の薄いクロム鉄鉱層（黒色部）がみえる．Bushveld火成岩体東北部Dwars River Bridgeにて（1970年3月8日撮影）.

写真2（表下）. Bushveld火成岩体の上位帯（Upper zone）の磁鉄鉱層. Bushvled火成岩体Magnet Height にて（1970年3月8日撮影）.

写真3（裏）. 斜長岩層（写真1）の偏光顕微鏡写真．写真の左右は13mm．写真の下部は，クロム鉄鉱層であり，粗粒な（5〜6mm）斜長石と細粒の（0.02〜0.4mm）クロム鉄鉱からなる．写真の上部・中部は斜長岩層であり，細粒〜中粒の（1〜2mm）斜長石の集合体である．斜長石の組成はAn70〜80であり，アルバイト・カールスバド双晶などが顕著（Suwa, 1979による）.

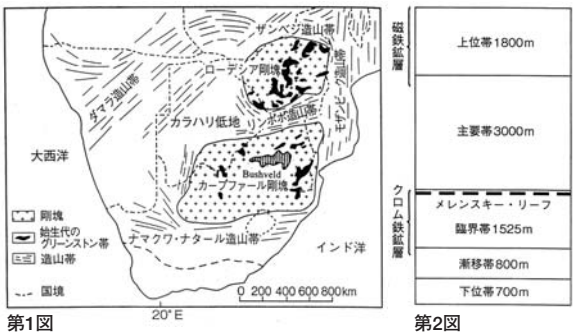
Bushveld火成岩体は，世界最大規模の層状火成岩体であり，カープファール剛塊の中東北部に位置する（第1図）．岩体は東西450km，南北240kmの壮大なもので，Transvaal系にほぼ整合的に貫入し，顕著な熱変成を与えている．岩体の厚さは13km，面積は6.7万km²に及ぶ．放射年代は20.5億年前．この岩体の下部は層状苦鉄質岩層で，層厚は8km．この岩体の上部は花こう岩層で層厚は5km．

8kmの層厚をもつ層状苦鉄質岩層は，超苦鉄質〜苦鉄質キュームレイトで，下位から上位にむけて，5つの帯に分けられる（第2図）．下位帯はかんらん岩主体．漸移帯の上部にはクロム鉄鉱が出現する．臨界帯は主に長石質の輝岩で，7枚のクロム鉄鉱層をはさむ．臨界帯上部には斜長岩層が出現する（写真１）．臨界帯の最上部に，白金を沢山含む鉱脈があり，Merensky Reefとよばれる．主要帯は輝石や斜長石に富むはんれい岩が主体．斜長岩層が10層はさまれる．上位帯は鉄はんれい岩・はんれい岩・閃緑岩主体．24枚の磁鉄鉱層（写真2）が特徴的.

5kmの層厚をもつ上部の花こう岩層は，下部の層状苦鉄質岩層とは，別のマグマ起源と考えられる.

第1図. 南部アフリカの始生代のカープファール剛塊・ローデシア剛塊・先カンブリア時代の造山帯（Robertsonら，1981から）．カープファール剛塊の中東北部にBushveld火成岩体は位置する.

第2図. Bushveld火成岩体下部の層状苦鉄質岩層の5つの帯.（Vermaak and von Gruenewaldt, 1986などから）.



第1図　第2図

©日本地質学会　〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル6F　電話03-5823-1150
Fax 03-5823-1156　E-mail：main@geosociety.jp　ホームページ http://www.geosociety.jp